

各教科の分析結果

1 小学校第3学年

(1) 国語

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国~平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(1) 国語

調査問題の構成とねらい

- ・ 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」及び〔言語事項〕に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 問題は、「聞き取り」、「物語文」、「説明文」、「ことば」、「話すこと」の5部構成とし、基礎的・基本的な内容について、特定の分野や内容に偏ることのないように、広い範囲から出題した。

平均点 73.7点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内容・ねらい		主な領域・事項	大問別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較
一	聞き取り	1	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞	88.5	80.7	70		
		2	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		96.4	75		H15
		3	内容の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		88.3	75		H15
二	物語文	1	適語挿入	文脈を踏まえて適語を選択することができる。	読	68.9	89.8	80		H15
		2	適語抽出	文脈を踏まえ該当表現を指摘することができる。	読		72.6	75		H15
		3	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を理解することができる。	読		58.6	70		
		4	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を想像することができる。	読		54.6	65		
三	説明文	1	内容把握	文脈を踏まえて、問題提示の段落を指摘することができる。	読	67.3	62.6	80		H15
			内容把握	文脈を踏まえて、問題提示の段落を指摘することができる。	読		47.8	70		
		2	内容把握	文脈を踏まえて、叙述の細部を読み取ることができる。	読		63.5	70		
		3	適語抽出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		82.9	80		
		4	適語抽出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		72.1	75		
			適語抽出	文脈を踏まえて、該当表現を指摘することができる。	読		74.6	75		
四	ことば	1	(1) 筆順(書写)	正しい筆順で書くことができる。	言語	76.4	64.0	60		H15
			(2) 筆順(書写)	正しい筆順で書くことができる。	言語		66.9	60		
		2	(1) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		55.2	65		H15
			(2) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		98.0	75		
			(3) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		79.3	70		
			(4) 漢字の読み	小学校3年生までに学習した漢字を読むことができる。	言語		83.6	70		
		3	(1) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		77.8	80		
			(2) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		82.9	80		
			(3) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		60.3	80		
			(4) 漢字の書き	小学校2年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		80.1	80		
		4	(1) 形のかわる	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		94.6	80		
			(2) ことば	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		86.7	80		
			(3) ことば	動作を表すことばが、使い方で形がかわることを理解できる。	言語		79.3	80		
		5	国語辞典の使い方	国語辞典に配列されている語の順番が理解できる。	言語		77.1	70		
6	(1) 表記の仕方	正しい文章の表記の仕方が理解できる。	言語	63.2	90		H15			
	(2) 表記の仕方	正しい文章の表記の仕方が理解できる。	言語	73.8	90					
五	話すこと	1	筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞	89.6	92.3	70		
			筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞		93.5	70		
			筋道を立てて話すこと	物事の順序や伝えたいことの内容を意識して適切に話すことができる。	話聞		88.6	70		
		2	話し方	相手やその場に応じた分かりやすい話し方に気を付けることができる。	言語		79.9	80		
話し方	相手やその場に応じた分かりやすい話し方に気を付けることができる。		言語	93.6	70					

主な領域・事項は、話聞...「話すこと・聞くこと」、読...「読むこと」、言...「言語事項」を示している。

一 正答率 (88.5%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	おかあさんが、 かぜをひいた(ひ いている)から	80.7		おかあさんが病気だから(3.6) おかあさんが熱を出したから(2.4)
2	イ	96.4	H15 97.2 類似	ア(2.0) ウ(0.4)
3	ア	88.3	H15 91.1 類似	ウ(9.6) イ(2.0)

< 考察 >

話の中心に気を付けて、大事な事を聞き取る力をみる問題である。

全体の結果から、聞く力はおおむね身に付いていると考えられる。問2、問3は、H15の類似問題であるが、正答率はほぼ同じである。問2、問3に比べて問1の正答率が低いのは、話の中心的内容については大まかにつかむことができるものの、中心的内容にかかわる細かいところまでは、正確に聞き取ることができていないためと思われる。誤答の中では、風邪を引いたことを「病気」や「熱」と答えている例が多い。お母さんに事情があったからということまでは理解できていても、どのような理由でという部分に注意を払って聞き取ることができなかつたためと思われる。

そこで、指導に当たっては、学年の発達段階に応じた聞き方(基本聴型)を整理し、事柄の順序や要点、中心など、話の組立て方を意識しながら、大事な事を聞き取ることができるよう指導することが大切である。その際、接続語や文末表現を意識しながら文のまとまりに着目するといった具体的な観点を示し、メモの取り方についても具体的に分かりやすく指導を行う必要がある。

二 正答率 (68.9%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	89.8	H15 88.1 類似	ア(4.4) ウ(3.0)
2	生まれたばかりの、小さな白い馬	72.6	H15 78.5 類似	生まれたばかりの白い馬でした。(3.6) 読点なし(6.4) 誤字,脱字(2.6)
3	体は雪のように白く、きりっと引きしまって、だれでも、思わず見とれるほどでした。	58.6		すすくと育ちました。(1.8) 句読点なし(6.4) 誤字,脱字(2.6)
4	(例)馬やひつじはだいじょうぶかなという気持ち	54.6		おおかみがひつじにとびかかろうとしていたから(3.2) 本文の書き抜き(1.8) 無解答(3.8)

<考察>

物語文を素材に、場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読み取る力をみる問題である。

問1は、文脈を踏まえて適語を選択する問題で、H15の類似問題であるが、昨年度同様、正答率は高い。問2は、文脈を踏まえて叙述に即した言葉の意味を問う問題で、これもH15の類似問題であるが、正答率が約6ポイント低下している。誤答の原因としては、正しく書き抜くことができずいたり、白いものが何かを読み取れていなかったりしていることが考えられる。問3は、すすくと育った状態がどのようなものを問う問題である。誤答の原因としては、すすくと育つという意味が理解できなかったり、正確に書き抜くことができずいたりしていることが考えられる。問4は、文脈に即して主人公の気持ちを考える問題であるが、正答率が特に低い。誤答の原因としては、駆けつけているときの気持ちを問う問題であるが、駆けつけた後の状況や気持ちを書いたり、本文を書き抜いたりしており、本文や問題文を正しく理解していないことが考えられる。

そこで、指導に当たっては、言葉への気付きを大切に、文脈における言葉の意味、語感などの幅のある理解や読み取りを通して、表現の役割や価値をとらえられるようにする必要がある。そのためには、日頃から、文章を読むこと(音読・朗読)を丁寧に指導したい。授業では、声に出して文章を読むことを指導過程の中に取り入れ、叙述に即して心情や場面の様子などを想像しながら読み取らせることが大切である。話合いにおいても、単に印象のみを発表し合うのではなく、叙述を基に考えを深め合うことが大切である。

三 正答率 (67.3%)

問題番号	標準解答	正答率(%)		比較(%)	誤答例(%)
1		62.6	55.2	H15 37.0 類似	(15.4)
		47.8			(5.9)
2	はじめの一ぴきのみつばちが、すばこに帰って、なかまに教えたのではないか。	63.5			花のみつのかわりにさとう水を入れた皿をおいた(2.2) みつをすうため(1.6) 誤字, 脱字(1.8) 無解答(3.6)
3	さとう水	82.9			はなのみつ(2.2) みつばち(1.2) 無解答(2.8)
4	(1) 円のダンス (円をえがくようなダンス)	72.1			左回りや右回りをする(2.6) 円のダンスを教える(2.4) 無解答(3.0)
	(2) 8の字のダンス (8の字を書くようなダンス)	74.6			8の字ダンスを教えている(2.8) 字のダンス(2.2) 無解答(3.6)

<考察>

説明文を素材に、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む力をみる問題である。

問1は、文脈を踏まえて問題提示の段落を指摘する問題で、H15の類似問題であるが、昨年度に比べて正答率が伸びているものの、高いとは言えない。問題文に、「読み手にたずねている」とあるにもかかわらず、「～でしょう。」や「～のでしょうか。」のような文末表現に注目することができていない。問2は、大問三の中で正答率が最も低かった問題で、文脈を踏まえて、叙述の細部を読み取ることを問う問題である。学者の考えを聞いているのに、実験方法やみつばちが花畑に来る理由などを答えている誤答が多く、問題文を細かく読み取ることができていないことが分かる。問3、問4は、文脈を踏まえて、該当表現を指摘する問題であるが、中心となる語や文をとらえて読む力は、ついていると考えられる。問4の誤答例を見ると、文章全体の流れや要旨を的確にとらえることができていないために、問いかけ・実験・結果などの段落の構成が読み取れていないことが分かる。

そこで、指導に当たっては、説明文の特徴や段落の構成などを的確に押さえていく必要がある。そのためには、段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しを付けたりするなど、内容を整理することが大切である。その際、接続語や文末表現などにも注目させながら、内容と形式の両面から、段落や文章構成について理解できるように指導することが大切である。

四 正答率 (76.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 六	64.0	H15 62.5 類似	八(22.4) 七(3.2)
	(2) 十三	66.9		十四(7.4) 十五(4.8)
2	(1) さいじつ	55.2	H15 74.4 同一	まつりび(4.0) まつり(3.2)
	(2) あ	98.0		あける(0.2) か(0.2)
	(3) そそ	79.3		およ(3.4) つ(2.8) 無解答(3.0)
	(4) どうさ	83.6		どうさく(4.2) 無解答(2.4)
3	(1) 黄色	77.8		黄ろ(3.2) 黄(3.0)
	(2) 午後	82.9		午後(2.0) 後午(1.8)
	(3) 通じる	60.3		通(1.4) 無解答(4.2)
	(4) 強まる	80.1		強丸(4.6) 無解答(2.6)
4	(1) 走ら	94.6		走(0.2) 走し(0.2) 無解答(0.8)
	(2) 走れ	86.7		走しれ(1.0) いけ(1.0) 無解答(2.4)
	(3) 走ろ	79.3		いこ(1.2) 走りあ(1.0) 無解答(3.0)
5	(3) (1) (2) あ あ あ き か き か い か ん ぜ	77.1		あかい あきかん あきかぜ(11.4) あきかぜ あきかん あかい(11.0)
6	(1) え へ	63.2	H15 87.2 類似	え に(2.6) 無解答(13.0)
	(2) 「わあ、にじだ。 きれいだね。」	73.8	H15 73.3 類似	「わあ、にじだ。」(2.2) 無解答(5.6)

< 考察 >

第3学年(教科書上巻)までに学習した漢字の読みと筆順,第2学年までの漢字の書きなど言語事項に関する力をみる問題である。

問1の漢字の筆順を問う問題は,H15の類似問題であり,正答率は昨年度同様,やや低い。問2,問3の漢字の読み書きについては,正答率からみると,その力が向上していることがうかがえる。しかし,問2(1)や問3(3)の正答率が極端に低くなっている。日常生活であまり使わない漢字の定着が十分でない。問4は,動詞の活用についての問いであるが,正答率は低くはないものの,全く違う言葉を答えている例もある。問題の意味を理解できていないためと考えられる。問6は,正しい文章表記の仕方を問うもので,第1学年で指導する内容であるが,昨年度と比べて正答率が極めて低くなっており,定着が十分でない。

そこで指導に当たっては,筆順や漢字の読み書き,活用と送り仮名などについて,重点的な指導を行い,文や文章を書く際に,漢字のもつ意味を考えながら正しく使う習慣を付けさせることが大切である。助詞の「は,へ,を」やかぎ(「」)の使い方については,視写や聴写の指導や,さまざまな書く機会をとらえた指導の中で,繰り返し指導して意識させることが必要である。さらに,語彙力を高めるために,国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解させるために,必要なときにはいつでも辞書が手元にあり,使えるようにすることも大切である。

五 正答率 (89.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例 (%)
1	イ	92.3	ウ(5.2)
	ア	93.5	ウ(2.2)
	ウ	88.6	イ(3.0) ア(2.4)
2	イ	79.9	ウ(7.0) ア(3.2)
	エ	93.6	ウ(1.8)

< 考察 >

相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す力をみる問題である。

問1は、伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて話す力をみる問題である。問2は、伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて話すこと、及び言語事項(1)(ア)「その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すこと」にかかわる問題である。いずれも正答率が高く、物事の順序や自分の思いなどが、分かりやすく伝わるように筋道を立てて話す力は、おおむね身に付いていると考えられる。

このような力を一層伸ばすためには、具体的な相手や目的を設定し、知りたい、分かりたいと思う相手に対して、知らせたい、伝えたいと思う事柄を話すという言語活動を展開することが大切である。その中で、行動の順序、時間の順序、場面の移り変わりの順序などを考えながら相手に分かりやすく話そうとすること、話の中心をはっきり決めて話そうとすること、話の要点が伝わるように工夫して話そうとすることなどを大切に指導する必要がある。また、場面や条件の違いに応じて、聞き手が聞き取りやすい音量や速さで話すという指導も必要である。